

放課後子ども教室と学校・地域が連携する地域学校協働活動の推進について ～石戸小学校放課後子ども教室を核としたネットワークのひろがりを目指して～

北本市教育委員会・北本市立石戸小学校放課後子ども教室

1 研究のねらい

石戸小学校放課後子ども教室は、コーディネーターや教育活動推進員、教育活動サポーターに支えられ活動している。現在、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から活動が縮小するとともに、開室から10周年を迎えスタッフの高齢化やその確保が課題となっている。そこで、既存の地域人材を効果的に活用し、より充実した放課後子ども教室の活動を展開していくため、放課後子ども教室実行委員会を核として、学校運営協議会やPTA、学校応援団、近隣の公民館等とのつながりを重視しながら、活動の創出へと結びつけていきたい。放課後子ども教室が石戸小学校や地域の関係団体と目標を共有し、サポートし合いながら一つの方向に向けた活動を推進していく。

2 研究の概要

(1) 地域人材の発掘や充実

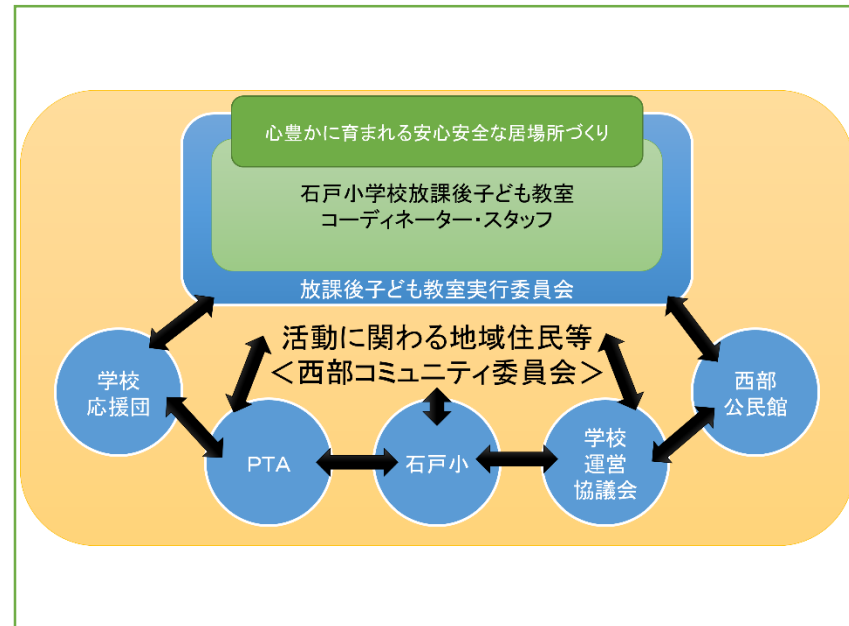
本放課後子ども教室は週4日間開室し、1日のスタッフはコーディネーター1名、教育活動推進員2名、教育活動サポーターは安全担当1名、指導担当2名の合計6名程度で実施している（現在登録スタッフは19名）。スタッフの高齢化に加え、市内他校の放課後子ども教室と兼務しているスタッフも多く、活動に必要な人数の確保が厳しい状況である。今後、継続的に活動を実施し、より充実した放課後子ども教室を展開するために、地域人材の効果的な発掘及び充実を進めている。

(2) 新たなネットワークを生かした継続的な地域学校協働活動の推進

学校応援団やPTA等の活動との連携に加え、新たなネットワークを活かした活動を創出してきた。これまでの活動も継続させながら、新たな活動を取り入れていくことで、放課後子ども教室の活動の充実を図るとともに、継続的な放課後子ども教室と学校・地域が連携する地域学校協働活動を推進している。

(3) 主な活動内容

- ①地域人材の発掘：市のホームページにおけるスタッフ登録者の募集
- ②新たなネットワークの活用：コーディネーターによる新たなつながりの構築
- ③新しい活動の取組（グランドゴルフ）：新たな地域の方や異年齢の児童との交流



3 ネットワークを構築した関係団体

- ・放課後子ども教室実行委員会
- ・かば桜学園学校運営協議会（石戸小学校・西中学校）
- ・西部コミュニティ委員会
- ・西部公民館
- ・石戸小学校
- ・学校応援団
- ・PTA

4 研究の成果

(1) 多様な方法を活用したスタッフの募集

本市では、市のホームページにおいて、スタッフ登録者の募集を開始した。（市内他校放課後子ども教室と共通）これまでに（令和5年1月現在）4名の応募があり、内1名は他校放課後子ども教室の教育活動推進員として採用した。その他の応募者については、勤務時間等の関係から調整中となっている。ホームページの活用により、そろばんや昔遊びなど新たな特技をもつ方の応募があり、多様な地域人材の確保に繋げることができた。

今後市のホームページに加え、SNSでの発信を検討している。また、月1回発行している参加児童保護者向けの「放課後子ども教室通信」を広報活動に活かすことを検討している。その際、放課後子ども教室や地域学校協働活動の趣旨等についても明記し、地域住民の放課後子ども教室に対する関心を高め、さらなる人材の発掘に繋げていく。

(2) 新たなネットワークの広がりによる新プログラムの実施

石戸小放課後子ども教室コーディネーターから西部コミュニティ委員会会長への連絡を通し、西部コミュニティ委員会との新たなつながりを構築することができた。西部コミュニティ委員会から、子供でも楽しめる活動として「グランドゴルフ」（西部コミュニティグランドゴルフクラブ）をご提案いただき、石戸小放課後子ども教室ではこれまで実施したことのない、新プログラムを実施することができた。

指導及び用具の借用をお願いし、9月から月2回木曜日のふれあい活動の時間（15:45～）に実施している。会長を含め西部コミュニティ委員会からも3名に参加していただき、子どもたちと一緒に活動している。

1回目は、子供たちも通常の大人用のクラブと玉を使用した。クラブの長さや重さを懸念し、2回目に合わせて会長自ら子供用のクラブを人数分作製してくださった。回数を重ねるごとに、子供たちの腕前が上達し、喜ぶ姿が見られるようになり、グランドゴルフをとおして会長をはじめ西部コミュニティ委員会の方と交流を深めることができた。（全5回実施）



グランドゴルフを実施している様子



【市HP】スタッフ募集



グランドゴルフ



自作子ども用クラブと
テニスボール（下）

5 課題と今後の展望

(1) 課題

一方通行の関係ではなく、放課後子ども教室からも地域社会へ関わりを深めていくことが必要である。そのために、地域の人的・物的資源を活用するだけでなく、地域社会と放課後子供教室が互いに連携・協働していくことが重要である。

(2) 今後の展望

西部コミュニティ委員会の催し物等に、石戸小放課後子ども教室も積極的に参加し、地域住民との交流を通して地域社会への関わりを深めていく。また、新たに広がったネットワークから、さらにつながりを広めていく。そして、既存のスタッフに加え、新たな人材のつながりを活かすことで多様な活動を創出していくとともに、子供たちを地域全体で育てていこうとする地域住民の意識改革を進め、石戸小放課後子ども教室を核とした、学校・地域が連携する地域学校協働活動の推進を図っていく。

コミュニティースクールと地域学校協働活動の一体的な推進

～鳩山中を核として進める学校と地域の絆づくり～

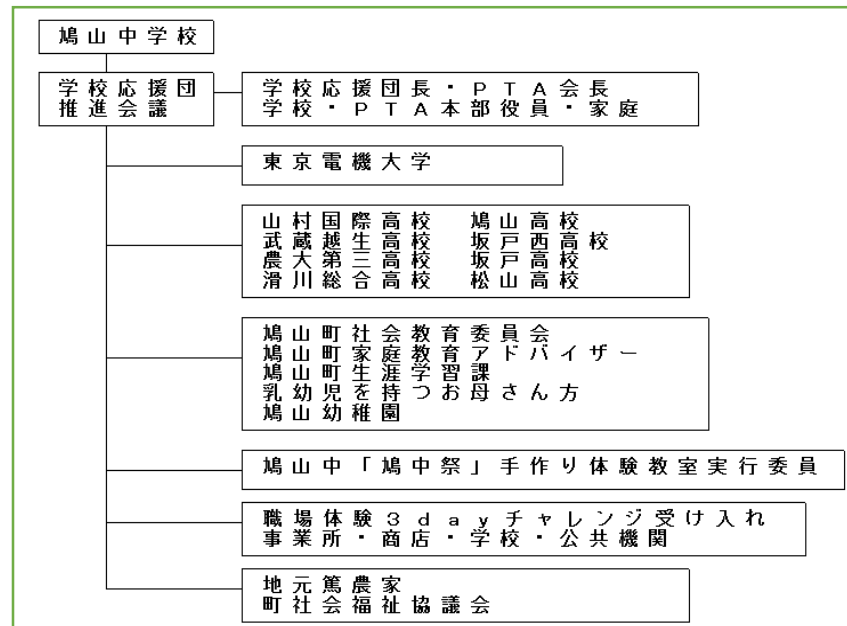
鳩山町教育委員会・鳩山町立鳩山中学校

1 研究のねらい

本校は令和3年4月に学校運営協議会を設置し、地域と学校が協働して教育活動を行っている。本校が鳩山町やこの地域の絆づくりに貢献できる学校であることを目標に掲げ、「鳩山中が鳩山町や地域の絆を深めるための核になろう！鳩山中の元気が鳩山町や地域を元気にする！！」を合い言葉に、コミュニティースクール体制を生かし、日々鳩山町や地域の方や保護者と、地域の創意工夫を生かし、地域と共にある中学校を創っている。2年目となる今年度は、学校運営協議会で「鳩山中が鳩山町や地域の絆を一層深める役割を担う」ことをねらいとして、熟議を重ねる。その提案を生かし、地域と学校が協働して取り組む具体的教育活動を実行する。鳩山中が核となり一層鳩山町や地域の絆づくりを進める。

2 研究の概要

- (1) 学校運営協議会で、鳩山町やこの地域の絆づくりのための具体的方策を提案するための熟議を行う。
学校運営協議会で『鳩山町やこの地域の絆を強くするために鳩山中は何をしたら良いか。』『鳩山町やこの地域を元気に、笑顔にするために鳩山中は何ができるか。』を、具体的に提案してもらうために熟議を行う。
- (2) 今までの学校応援団の活動をより良く改善し、「絆づくりのために」の視点を持ち、学校・地域・保護者・関係機関が相互に向上する具体的活動を実践する。
まだまだコロナ禍であるので、今までの学校応援団の活動を見直し、「鳩山中が鳩山町やこの地域の絆づくりに貢献できる学校であるには？また、鳩山中が鳩山町やこの地域を元気にしたり笑顔を与えたりする学校であるには？」の視点で、できる活動とできない活動を取捨選択する。より良く活動できるよう、改善して進める。
- (3) 鳩山中の諸活動に協力してくれる、保護者・地域の皆さん、関係機関、各学校との連絡協力体制を強化し、ネットワークをさらに強固にする。
具体的活動・・・○PTAボランティアサポーター ○大学訪問 ○出前授業
○言ってんべー聞いてんべー大会 ○職場体験3dayチャレンジ ○校内落ち葉掃きボランティア ○夏の体験ボランティア ○校地内の草刈り



3 ネットワークを構築した関係団体

- ・学校応援団 ・PTA ・近隣高等学校 ・東京電機大学
- ・町内小学校 ・町内幼稚園保育園 ・自治会 ・社会教育委員会 ・公民館 ・町文化会館 ・商工会 ・地元企業商店
- ・民生委員 ・JAXA ・町役場

4 研究の成果（具体的取り組み）

（1）鳩山中学校応援団『鳩中草刈り隊』

鳩山町広報『はとやま』で、「鳩山中学校応援団『鳩中草刈り隊』」を募集した。鳩山町の地域からボランティアとして、18名の方が応募してくださった。月1回5月から10月と年末12月の合計7回月末の土曜日、校地内の草刈り・樹木の剪定・落ち葉掃き・側溝や屋根の美化等校内環境整備美化活動に取り組んでくださった。教員・生徒も一緒に活動することで、共に汗を流し、お互いの信頼関係が構築できた。『鳩中草刈り隊』の活動が「鳩山中が鳩山町や地域の絆を深めるための核」になっている。



〔草刈り隊時の生徒〕

（2）近隣高校による出前授業・大学訪問

近隣の高校の先生に来校していたとき、鳩山中3学年の生徒が高校の先生の授業を受講する『出前授業』。鳩山町内の東京電機大学を訪問し、鳩山中2学年の生徒が大学の先生の授業を受講し、大学見学をする『大学訪問』。出前授業は近隣の公立高2校、私立高3校の先生の、それぞれ国語・社会歴史・理科化学・英語・技術プログラミングの授業を受講した。大学訪問は大学の先生の『化学で数学を解く』の授業を受講した。大学訪問では、大学という教育機関のもつ知識や情報を地元の中学生に還元したいという想いと、最先端の教育を学び学習への意欲付けを行いたいという中学校の想いがマッチしたことにより実現している。鳩山中と地域の高校・大学がお互いに連携・協力することで、「鳩山中が鳩山町や地域を元気にするための核」になっている。



〔大学訪問〕

（3）職場体験3Dayチャレンジ事業

鳩山中1学年の生徒が、鳩山町内や近隣の事業所・会社・商店・学校・幼稚園・役場・JAXA等で、職場体験を行った。鳩山中の生徒の体験学習に、多くの大人たちが関わることで、中学生は、自分の将来の職業観・就きたい職業への考え・進路キャリア学習への意欲・自分のライフプランへの準備等が見え始めた。感想からは「そこで働いている人の話を聞き、仕事に誇りと情熱を持っていて感動した。」「多くの人々がぼくや町のためにたくさんの時間を費やしていると感じた。普段の何気ない生活も多くの人に支えられているということに気づいた。」など、職業観や地域の方への感謝の思いが伺えた。地域の職業を知るという意味でも貴重な機会となった。また、受け入れた事業所にとっても、地域の子供と関わる大切な機会となり、地域の子供を知りここでの関わりが絆づくりの基盤となっている。鳩山中の生徒と地元事業所で働いている多くの大人たちが協働することで、「鳩山中が鳩山町や地域に笑顔を与える学校」になっている。



〔職場体験〕

5 課題と今後の展望

（1）課題 ①諸活動をコーディネートする学校側の人材・時間・場所・経費等をどのように確保していくか。②諸活動を教育課程にどのように取り入れ、位置づけていくか。③コロナ禍の中で、予定していた活動をどのように確保・実行していくか。④鳩山町や地域の皆さんと教職員・生徒との協働活動をどのように確保していくか。⑤今後の人事異動で管理職が替わった時、現在の活動をどのように引き継いでいくか。

（2）今後の展望 コミュニティスクール体制が始まって2年目の今年度、まだまだコロナ禍であるが、計画した活動がある程度行えている。「コロナ禍の中の活動」を考えている日々だが、鳩山町や近隣地域の皆さんとの協働活動が軌道に乗りつつある。鳩山町教育委員会事務局で整備した、「鳩山中・ホームページ」での情報発信が重要である。デジタル時代の現代。適切・迅速な情報開示・情報提供が「信頼される学校」を創るために欠かせないという。課題解決を念頭に置き、関係機関と連携して、事業を進めたい。

学校と学校運営協議会、学校応援団等との有機的連携を通じた地域学校協働活動の一体的推進

小鹿野町教育委員会 小鹿野町立両神小学校

1 研究のねらい

研究の中心となる小鹿野町立両神小学校は、現在8学級（内特別支援学級2）で、全校児童69名の小規模校である。小学校の周辺の小森川や四阿屋山等を活用した自然体験学習も盛んである。校庭の一角には野鳥の森も整備され動植物を直接観察でき、学校ファームでは野菜づくりや稲作体験もできる好環境にある。学校の近くには、図書館兼公民館があり、地域の様々な行事が行われ、児童もそれらに参加している。

本年度より学校運営協議会も発足し、地域の人材や資源に有機的な関連を持たせ、地域学校協働活動をさらに活性化させる流れとなっている。課題解決に向けて、学校運営協議会を核として学校と地域が目標を共有し、より一層連携・協働した活動を推進していくために、本テーマのもと研究に取り組むこととした。

2 研究の概要

(1) 学校運営協議会を中心とした地域団体との連携

学校運営協議会において、「めざす児童生徒像」や「めざす学校像」、「地域の願い」等を委員全員で共有し、地域が一体となった教育活動の推進を図る。

[主な活動内容]

- ・両神山登山
- ・米作り体験
- ・神楽学習指導
- ・出張図書館
- ・薬師堂マーケット
- ・名人に学ぶ
- ・交通安全教室
- ・生き方学習

(2) 地域学校協働活動の一層の充実

活動計画を見直し、活動状況を積極的に地域に発信し、協力を呼びかけることで、家庭を含む地域全体で学校教育を支援する体制作りを推進し、教員の子供と向き合う時間の増加、及び家庭・地域の教育力の向上を図る。

[主な活動内容]

- ・いきいき教室
- ・すくすく学習
- ・読み聞かせ
- ・昔の遊び体験
- ・サマースクール
- ・登下校の見守り
- ・2week草むしり
- ・図書室整理



3 ネットワークを構築した関係団体

- ・学校応援団
- ・町内小中学校
- ・小鹿野高等学校
- ・地元企業
- ・民生児童委員
- ・西秩父商工会
- ・地域おこし協力隊
- ・明治大学
- ・町立図書館
- ・公民館
- ・甲武信ユネスコパーク推進協議会

4 研究の成果

(1) 学校運営協議会を中心とした地域団体との連携

①目標の共有化による、学校と地域間の連携の強化

6月に行われた第1回学校運営協議会において両神小学校のめざす児童像「くよくよ学ぶ子」くやさしい子くがんばる子」やめざす学校像「笑顔いっぱい、地域に誇れる学校～誰一人取り残さない～」等を委員全員で共有する事ができた。共有した内容を基に、学校運営協議会委員である社会教育課職員がふるさと学習のオリエンテーションを実施する等、新たな地域人材を活用することができた。

②めざす学校像、生徒像を具現化させるための地域一帯活動の充実

両神小学校では、目指す学校像をより具体化するために、今年度より総合的な学習の時間を「わが里タイム」と改め、郷土両神に誇りを持たせる諸活動を年間計画に位置づけて実施した。4年ぶりの実施となった「両神山登山」の学習では、事前学習の段階から、山岳ボランティアや、小鹿野警察署、小鹿野町役場各課等多くの地域の方々の支援をいただき実施することができた。3学期には5年生が「わが里タイム」のまとめとして、かつてにぎやかだった縁日や市を再現する「薬師堂マーケット」を実施予定である。檀家、地域おこし協力隊、明治大学生、企業・農家、町役場各課等多くの方々の協力の下、実施に向けての準備を進めている。



〔ふるさと学習オリエンテーション〕



〔両神山登山〕

(2) 地域学校協働活動の一層の充実

①地域への発信

学校応援団の活動をブログや学校便りで積極的に公開し、様々な取組を紹介した。また、放課後子ども教室の活動を紹介する「いきいきだより」を年3回発行した。学校応援団コーディネーターやボランティアスタッフの募集についても、授業参観日や学校便りや呼びかけ、地域の地域学校協働活動への関心を高めると共に、人材確保を目指した。今年度は計39名の方々が活動に参加した。

②活動の充実

両神小学校では、「いきいき教室（放課後子ども教室）応援団」、「学習応援団」、「安全応援団」、「環境応援団」の4つの分野に分かれて活動が行われている。今年度は、個々の得意分野が活かせるよう、年度当初に年間の活動計画を立て、活動内容毎を12グループに分けて募集を行った。学校応援団の方のきめ細かな支援や専門的な知識・技能に触れることで、子供たちは意欲的に学習に取り組むことができた。また、安全にも配慮して行うことができた。さらに活動を見直し・改善していくことでよりよい活動となるようコーディネーターとの連携をより一層深めていきたい。



〔応援団によるいきいき教室〕

5 課題と今後の展望

(1) 課題

- ・継続的な活動とするための人材の確保。
- ・地域学校協働活動が、より地域全体で学校教育を支援する活動となるための体制作り。

(2) 今後の展望

人材確保に対する手立てとして、学校運営協議会を中学校区で実施している強みを活かしていく事を検討している。具体的には、中学校区（町全体）での地域資源の活用や、他の小中学校の応援団や協力者の交流等である。地域学校協働活動のさらなる充実の為には、地域の願いや学校、児童の願いを共有した上で、両神小学校の教育活動のニーズに柔軟に対応できる場が必要である。学校応援団担当者会議を定期的開催する等、関係者の話し合いの場を充実させていきたい。

学校運営協議会を核とした地域学校協働活動の推進

～幅広い層の地域住民等が参画した「緩やかなネットワーク」形成を目指して～

羽生市教育委員会 教育長 秋本 文子

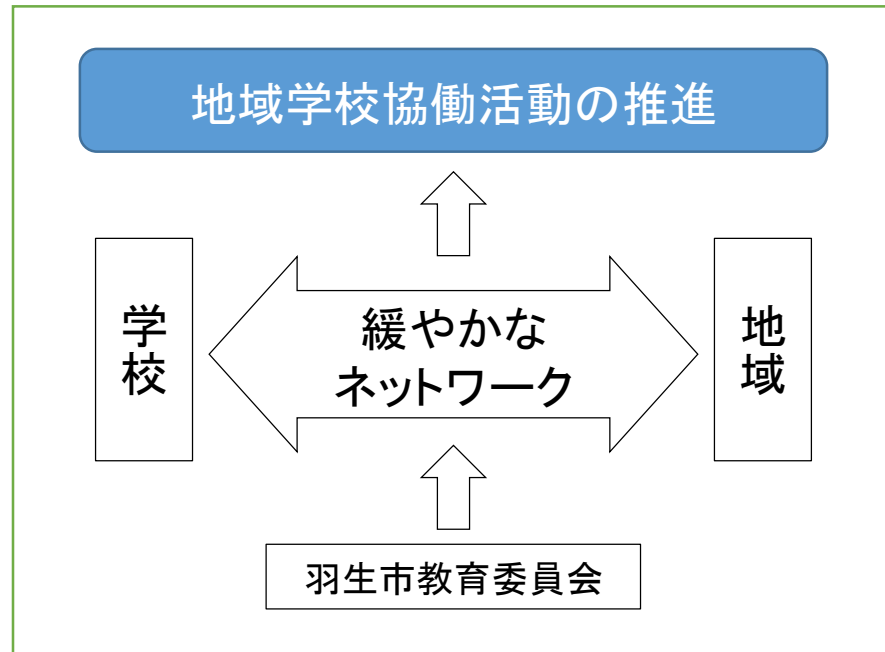
1 研究のねらい

本市では、平成30年度より小学校、令和2年度より中学校に学校運営協議会制度を導入し、保護者や地域住民等の学校運営への参画促進及び連携強化を図っている。各学校が地域の実態に応じ、学校を核とした地域づくりの推進を目指して取り組んでいる。

そこで、市内全小・中学校において、学校運営協議会を核としたより多くの幅広い層の地域住民等が参画した「緩やかなネットワーク」を形成することで、地域学校協働活動をさらに活性化させ、地域全体で未来を担う子供たちの成長を支えていく。

2 研究の概要

- (1) 学校運営協議会を核とした地域学校協働活動推進を目指す推進計画の立案
これまでの各学校の取組や成果、課題を共有・分析し、学校運営協議会を核とした地域学校協働活動の推進を目指す計画を立案し、地域と学校がより一層連携を強化し、学校を核とした地域づくりを推進する。
- (2) 学校応援団と学校の連携体制を基盤とした、より大勢で幅広い層の地域住民等が参画する「緩やかなネットワーク」の形成
学校応援団やその他関係機関との連携体制の強化を図り、より大勢で幅広い層の地域住民等が参画する「緩やかなネットワーク」の形成を目指す。
- (3) 主な活動内容
 - ・各小・中学校における学校運営協議会のこれまでの取組や成果・課題等の共有・分析
 - ・登下校の児童の見守り、野菜の栽培、昔の遊び体験、部活動支援等、地域人材を活用した学校応援団事業の更なる推進
 - ・放課後子ども教室（子供たちの安心・安全な居場所づくり）
 - ・保育園、保育所、幼稚園、認定こども園や大学との連携強化（保幼小連携事業、埼玉純真短期大学との連携事業）
 - ・公民館事業の推進（学力アップ羽生塾、英語村）
 - ・体育振興会（スポーツ振興課）事業の推進（マラソン大会等）



3 ネットワークを構築した関係団体

- ・全小・中学校
- ・保育園、幼稚園、認定こども園、保育所
- ・自治会
- ・民生委員
- ・商工会
- ・PTA
- ・地域見守り隊
- ・高等学校
- ・大学
- ・公民館
- ・学校応援団
- ・体育振興会
- ・地元企業 等

4 研究の成果

(1) 学校運営協議会を核とした地域学校協働活動推進を目指す推進計画の立案

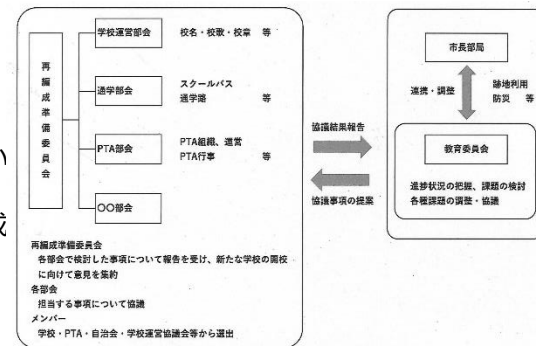
- 各学校において学校運営協議会を実施し、それぞれの地域の実態に応じた地域学校協働活動の推進を図っている。
- 各小・中学校から提出された学校運営協議会報告書を改めて整理し、羽生市としての推進計画のモデルを作成する。

(2) 学校応援団と学校の連携体制を基盤としたより大勢で幅広い層の地域住民等が参画する「緩やかなネットワーク」の形成

- 令和7年度の学校再編成に伴う新校の設置に関し、開校準備を円滑に行うため、再編成準備委員会と専門部会を設置した。会議のメンバーは、保護者、教職員、自治会などの地域住民、学校運営協議会員等で構成され、将来の子供たちにとってよりよい教育環境を整えるために協議を行っている。大勢で幅広い層の地域住民による「緩やかなネットワーク」の実現に向けた先行事例として、再編成準備委員会における成果や課題を洗い出し、羽生市の「緩やかなネットワーク」形成のモデルとする。

(3) 主な活動内容

- 「放課後子ども教室」では、放課後の子供たちの安心・安全な居場所を設け、地域の方々と様々な活動を行い、異年齢間の交流を深めることができた。人材確保については、指導員の推薦により、現在は人員の確保をすることができているが、継続的な人材確保が課題である。
- 市内の保・幼・小・中・高・大及び関係機関の連携事業「学びあい夢プロジェクト事業」では、縦軸の「緩やかなネットワーク」による地域学校協働活動として捉え、各種の交流をとおして、幼児・児童・生徒・学生の学びが広がり、将来の社会的自立に向けて、健やかな成長を図ることができた。
- 「学力アップ羽生塾」では、地域住民を講師とし土曜日の児童の学習サポートを実施することで、生き生きと児童が学習に臨む姿が見られた。元教員をコーディネーターとすることで、講師の人材確保をスムーズに実現することができている。
- 教育委員及び公民館の事業「英語村(友・遊・プラザ)」では、児童や保護者、地域住民が英語に慣れ親しむ機会の充実が図られ、地域で国際理解について関心が高まり、地域全体の活性化につなげることができた。



【(2) 再編成組織図】



【(3) 放課後子ども教室】



【(3) 英語村(友・遊・プラザ)】

5 課題と今後の展望

(1) 課題

- 平日の日中に活動できる地域住民の大半は高齢者であることから、保護者世代の継続的な人材確保が課題であり、持続可能な「緩やかなネットワーク」の形成が未だ課題である。

(2) 今後の展望

- 市役所の各種会議(自治会、PTA連合会、交通安全対策協議会等)にて、教育委員会から地域学校協働活動の推進について発信し、さらなる推進を図る。
- 再編成準備委員会(保護者・教職員・地域住民・学校運営協議会・市職員)における連携推進のノウハウを地域学校協働活動推進のモデルとし、校長研究協議会等をとおして各学校へ適宜情報提供することで、地域学校協働活動・学校運営協議会のさらなる推進を図る。